

国土の長期展望に関する意識調査 の結果について

平成22年9月27日
国土交通省国土計画局

国土の長期展望に関する意識調査の結果(概要)

【調査の目的】

人口、社会経済、国土基盤、産業等の幅広い分野の専門家・識者の方々が、これからの日本列島の姿(2050年ごろまで)についてどのように見ているかを調べる。

【対象/期間】

日本学術会議、日本建築学会ほか、国土計画に関連する約30の学会会員(回答総数約620。内訳:男550女70、50歳未満315・50歳以上305) / 平成 22年7月7日~7月28日

1. ライフスタイル

高齢化

「物・仕事」より「こころ・余暇」を重視。労働時間や通勤・通学時間は減る。

2. 人口

人口減少

人口は都市に集まる。また、日本に在住する外国人が増える。

3. 国際関係

環境悪化は止まらず、国間での生産の分業化は進み、経済格差や地域対立は拡大する。

4. 経済・産業

サービス産業が増加し、生産・消費が都市に集中。労働力の減少は外国人等が補完。

5. 都市

6. 農山村

都市圏の中央部への人口集中が進む。農山村において宅地化等は進まない。

7. 国土基盤

維持・更新が困難になり安全性が低下する、利用されずに放置される等が深刻な問題に。

8. 交通・情報

情報通信が発達しても人・物の移動は増える。農山村を中心に自家用車の利用率は増える。

9. 国土利用

居住は便利な地域へ集まるが、居住面積は変わらず。空き家、放棄地等が課題に。

10. 環境・エネルギー

石油・石炭に代わり、自然・廃棄物・原子力エネルギーのシェアが高まる。

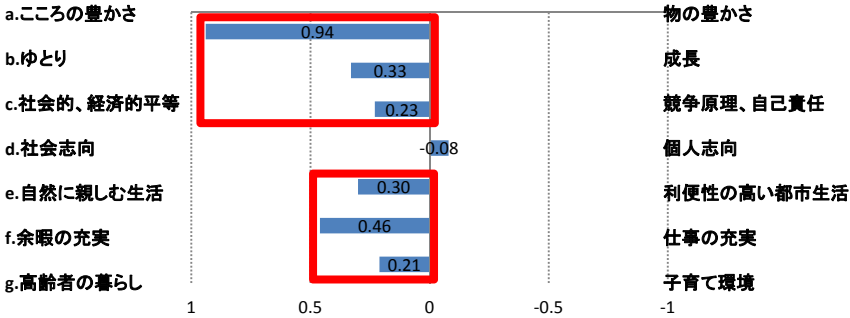
1. ライフスタイル

(回答の傾向)

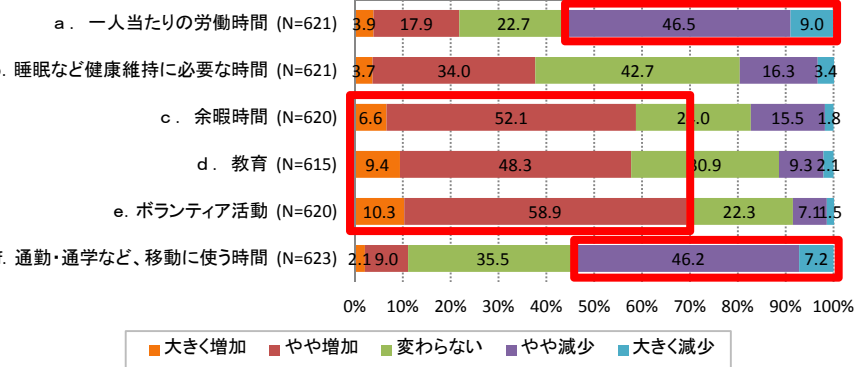
○国民の価値観としては、「物・成長・競争・仕事」より「こころ・ゆとり・平等・余暇」を重視するようになる。生活時間については、「労働・移動」が減り、「ボランティア・余暇・教育」が増える。(自由意見より)

●多数を占める高齢者の価値観が支配的になるが、それが本当に正しいか疑問。高齢者かその他かで二極に分かれる。共存を許容する、または両価値観のバランスをとる社会環境が必要。

Q1. 2050年までの我が国を考えた際に、国民が求める価値観・視点は、以下のどちらを重視するようになるとお考えになりますか。
 <「どちらともいえない」を0とし、重視する強さによって、左の項目を+1又は+2で、右の項目を-1又は-2で評価した場合の平均値>



Q2. 2050年頃の国民の生活時間についてどのような変化があるとお考えになりますか。

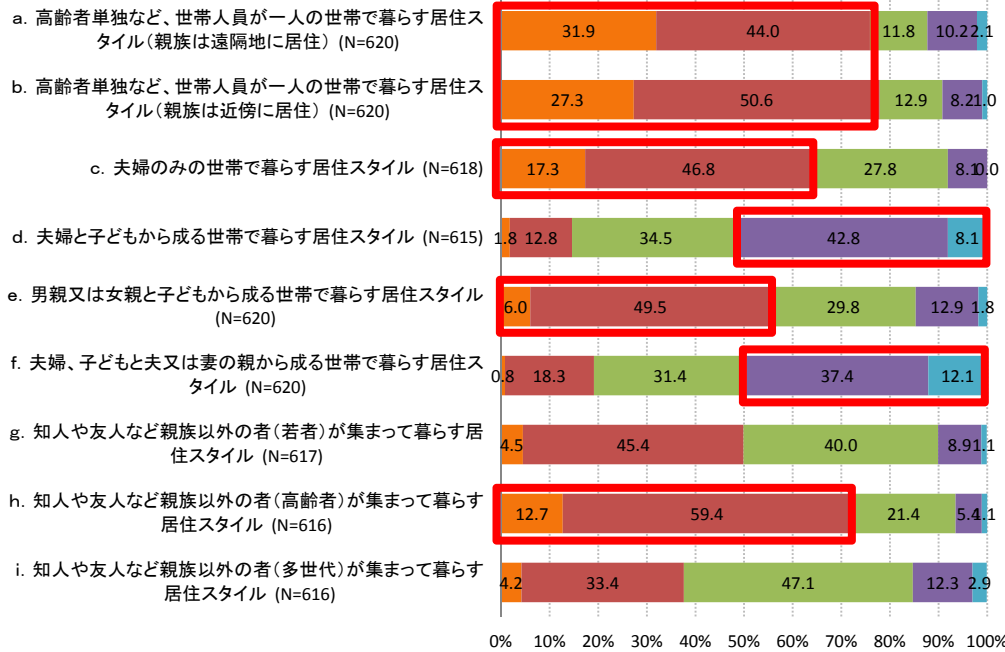


(回答の傾向)

○「夫婦子供と夫又は妻の親との世帯(3世代)」や「夫婦と子供との世帯(核家族)」が減り、「高齢者単独など、一人で居住するスタイル」、「夫婦のみの世帯」、「男親又は女親と子供との世帯」が増える。また、高齢者では、親族以外で集まって暮らすスタイルも増える。(自由意見より)

●育児、教育、介護の社会化が進み、親子それぞれが独立して居住するスタイルが増える。核家族にコストを課すべき。

Q3-1. 人口が減少していく一方、2030年まで世帯数はほとんど変わらないと予測されています。高齢者のグループホーム、若年層を中心としたルームシェアなど、従来の「家族」単位にとられない居住も都市を中心に話題となっています。「家族」のあり方も時代とともに変化していくと考えられますが、2050年頃には、我が国における居住スタイルはどのように変わっていくと予想されますか。【三大都市圏】



■ 大きく増加 ■ やや増加 ■ 変わらない ■ やや減少 ■ 大きく減少

2. 人口

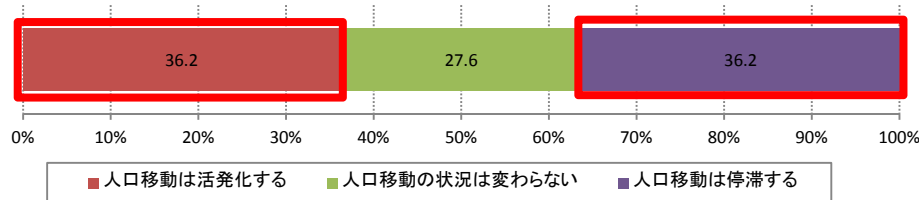
(回答の傾向)

○国内の人口移動が増えるか、減るかについては見解が分かれるが、いずれにしても**人口は都市に集まる**。国際的な移動は増え、特に外国からの流入は強まり、**日本在住外国人が増加する**。その内訳では、留学目的は比較的少なめ。

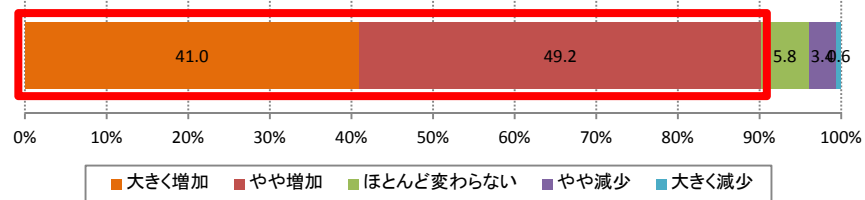
(自由意見より)

●**単純労働をする外国人、不法滞在する外国人等が増えることに対する社会的コストを考える必要がある**。高度の専門性を持った優秀な人材を確保する国策が必要。少なくとも、留学生の受入れについてはもっと積極的に促進すべき。

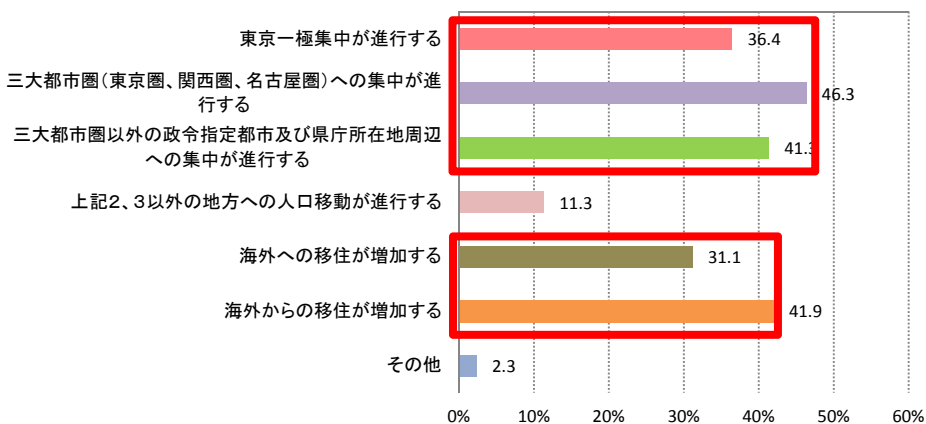
Q4-1. 今後、2050年にかけての我が国の人口移動の状況について、現在に比べてどのように変化するとお考えになりますか。【全体的動向】(N=619)



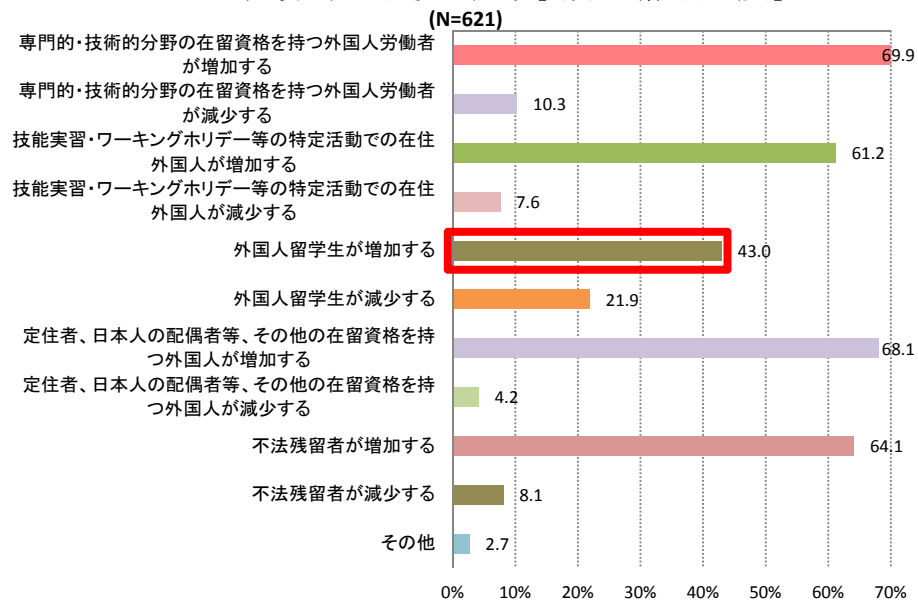
Q5-1. 2050年頃における日本在住外国人数の状況について、現在に比べてどのように変化するとお考えですか。【全体的動向】(N=622)



Q4-2. 今後、2050年にかけての我が国の人口移動の状況について、現在に比べてどのように変化するとお考えになりますか。【移動先】(N=618)



Q5-2. 2050年頃における日本在住外国人数の状況について、現在に比べてどのように変化するとお考えですか。【外国人の類型別の動向】(N=621)



3. 国際関係

(回答の傾向)

○気候、天然資源、水等の環境悪化の傾向は抑制できない。経済の面では、生産の分業化、国間の人々の移動、経済の一体化は進む中、経済格差や食糧の生産・消費の偏在は拡大する。一方で、民族・歴史文化に根ざした価値観・生活スタイルは多様化する。総じて、**国間の対立・緊張が現在よりも弱まる可能性は低い**。

(自由意見より)

●**宗教、民族、歴史等ローカルの独自性が顕在化する**。これを調和、調整することに労力を割くようになる。

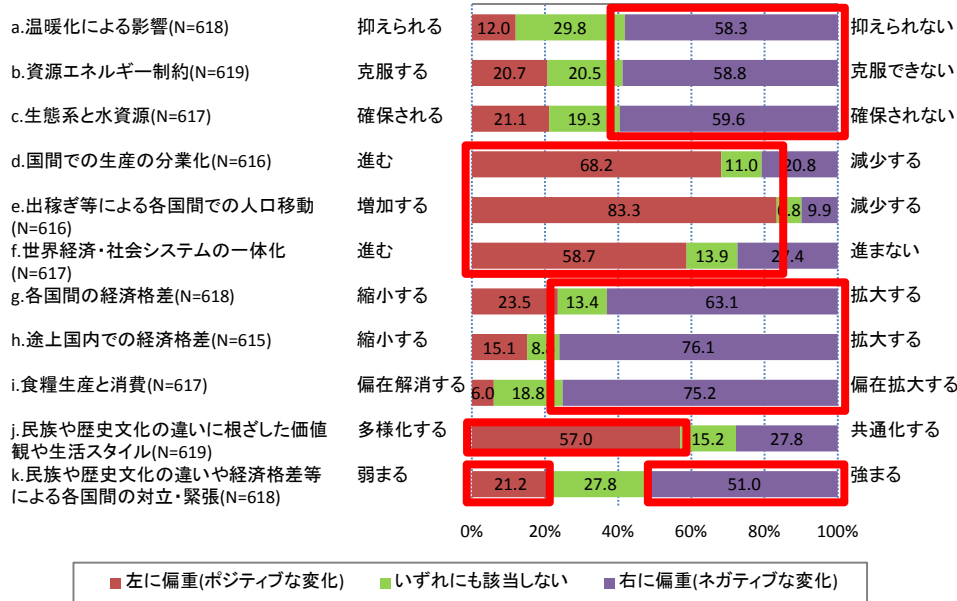
(回答の傾向)

○国際経済で中心的、先導的な役割を果たすことになるのは、圧倒的に中国。他では、北米、欧州。次いで日本、南アジア、東南アジア。日本と東アジアとの経済社会的関係は強まり、**分業は進むが、貿易が増えるか、減るかについては見解が分かれる**ところ。

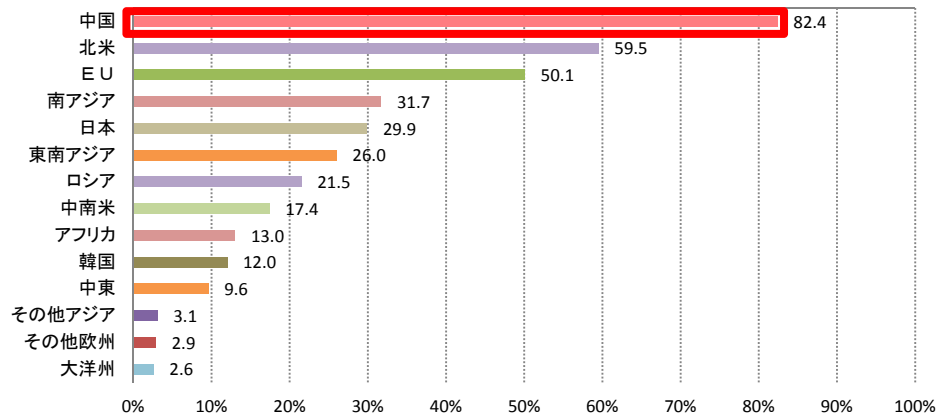
(自由意見より)

●製造拠点という意味では、国際的な分業化は進むが、アフリカ、南米、東南アジア、南アジアなどに移っていく。**日本国内の製造業の空洞化は一層進む**。

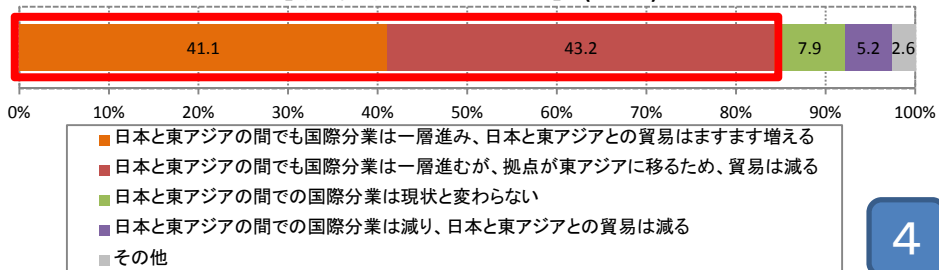
Q6. 世界の経済社会の潮流に関する下記の項目について、2050年にかけてどのように変化するとお考えですか。



Q7. 2050年頃の国際経済で中心的、先導的な役割を果たしている国・地域はどこであると考えますか。(N=615)



Q9-2. 現在では、日本と東アジアの関係は、経済社会的に強い関係となりつつありますが、2050年頃までを展望する中で、このような関係はどうなるとお考えですか。【相互関係のあり方について】(N=618)



4. 経済・産業(1)

(回答の傾向)

○産業構造は「**労働、設備、物**」より「**知識、サービス**」の比重が高まり、**生産・消費活動は都市に集中する**。なお、ボランティア、地域活動などの「**新しい公共**」は増加する。

○**三大都市圏とその他の地域の経済格差は拡大する**。

(自由意見より)

●**国際競争力を高めるため、東京圏を今以上に増強する必要**。地方への還元、権限の移譲は進めるべき。他方、地域資源を地域で活かし地域のGDPを増やすことや地方での産業創出が望ましい。**地方に分散していくような経済・社会体制を構築すべき**。

(回答の傾向)

○**実質経済成長率の水準は、2%を超える可能性は低い**。

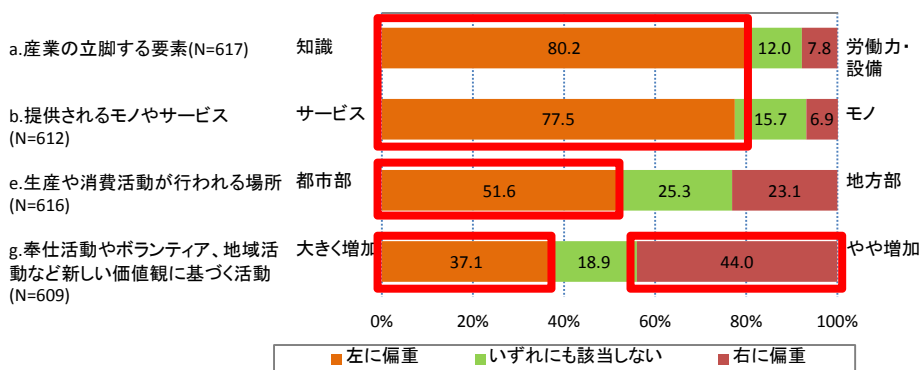
○GDPに占める構成比では、住宅、設備投資や公共投資が減少し、社会保障支出が大きく伸びる。

(自由意見より)

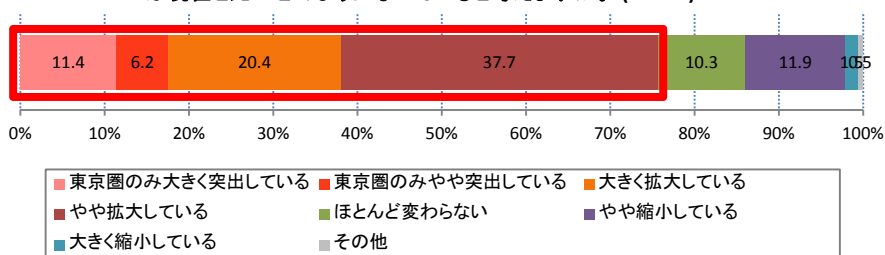
●**人口減少を考えるとGDPは縮小する。一人当たり国民所得の維持が重要**。成長という概念が見直され、安定、生活の質、衣食住の確保、老後の豊かな生活などが目指されるべき。**年金、医療等福祉のためには成長が必要**。

●**インフラの寿命向上、維持補修の低コスト化、メンテナンス技術の向上が必要**。基本技術に投資をしていくべき。

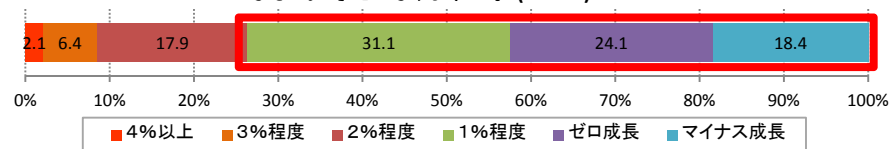
Q10. 世界的な潮流の中で、日本国内の産業に関する下記の項目について、2050年にかけてどのように変化していくとお考えですか。



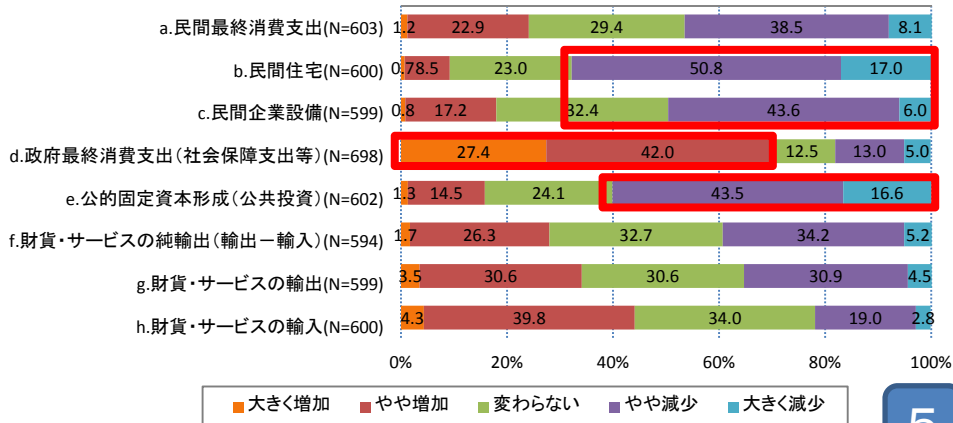
Q13. 2050年頃には東京圏、関西圏、名古屋圏とその他の地域との経済格差は現在と比べてどのようになっていると考えますか。(N=612)



Q11. 今後、2050年にかけての実質経済成長率の水準について、どの程度になるとお考えになりますか。(N=614)



Q12. 今後、少子高齢化の進行が予測される中、社会保障支出の増加、貯蓄の減少に伴う投資資金の不足や経常収支の悪化等が懸念されますが、2050年頃におけるGDP全体に占める支出項目別の構成比は、現在と比較してどのようになるとお考えですか。



4. 経済・産業(2)

(回答の傾向)

○**労働力が減少する中でも、女性、高齢者、外国人のいずれかが補完し、経済活力は維持される。**

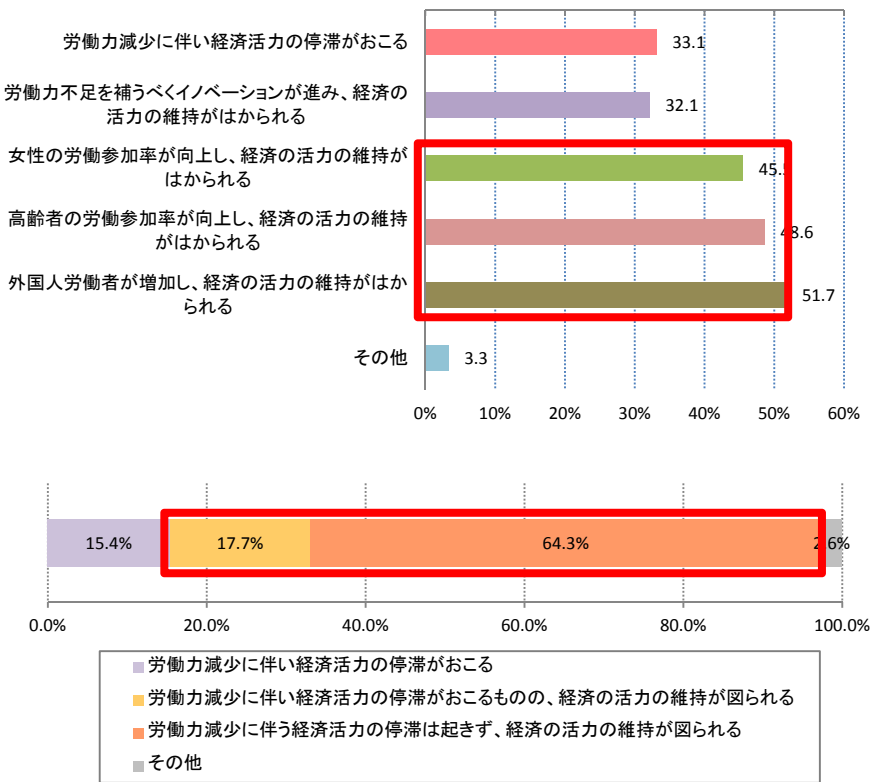
○労働力人口の割合では、情報通信、医療福祉のほかサービス関連が増加する一方、鉱業、建設、林業、漁業、公務、不動産、卸小売が減少する。農業、製造業の人口が増加するか、減少するかについては見解が分かれるところ。

(自由意見より)

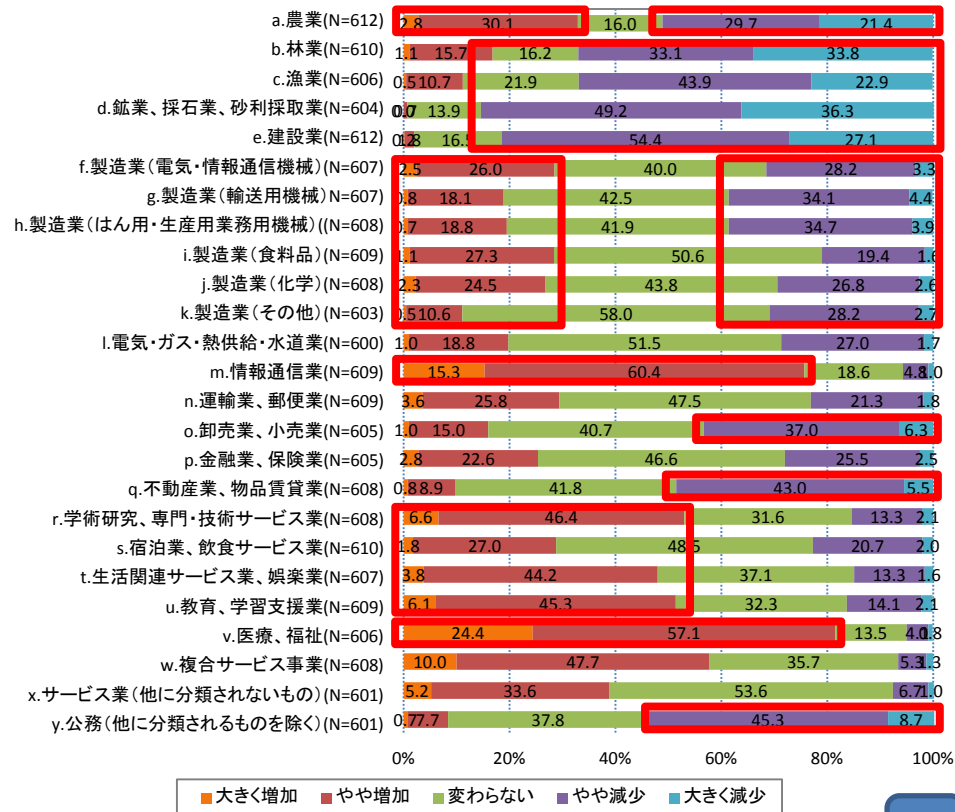
●サービス業への就労人口の増加は必ずしも社会の活性化にはつながらない。むしろ、製造業・一次産業を重視すべき。

●**労働力が少ないときには、少ないなりの工夫(時間、質、年齢等)が働くため、問題にならない。**むしろ、労働力以外の要素が経済成長・経済活力に寄与して、その結果として労働需要が決まる。

Q14. 今後、人口の減少が予測されるなか、2050年頃には労働力の相対的不足が懸念されますが、日本の経済社会はどのように変化するとお考えになりますか。(N=611)



Q15. 2050年頃には各分野で労働力人口の割合はどのように変化しているとお考えになりますか。



5. 都市

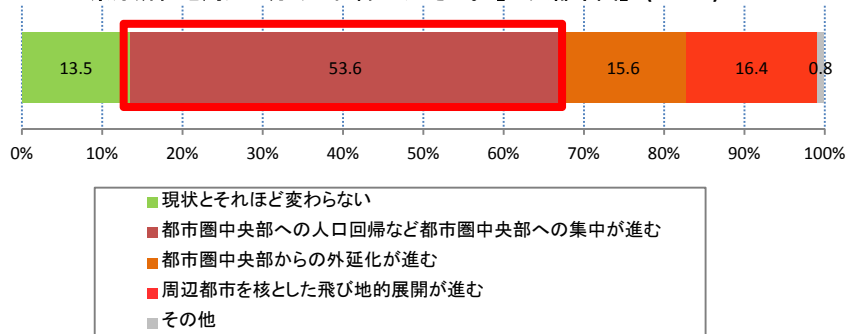
(回答の傾向)

○都市の構造は、都市外延や飛び地的に広がっていくよりも、**都市圏中央部への集中が進む**。

(自由意見より)

●医療・介護の受け皿となる等、**独自のビジョンを持った地域が人を呼び込み、それ以外の地域は空洞化やスラム化が深刻化する**。

Q16-1. 21世紀初頭より本格的な人口減少の局面を迎えておりますが、2050年頃には都市圏の構造はどのような変化が予測されますか。三大都市圏(東京圏、関西圏、名古屋圏)と三大都市圏以外の政令指定都市及び県庁所在地周辺に分けてお答えください。【三大都市圏】(N=608)



6. 農山村

(回答の傾向)

○農山村地域については、多面的機能が重要となる一方、**宅地化等の土地利用の転換は進まない**。

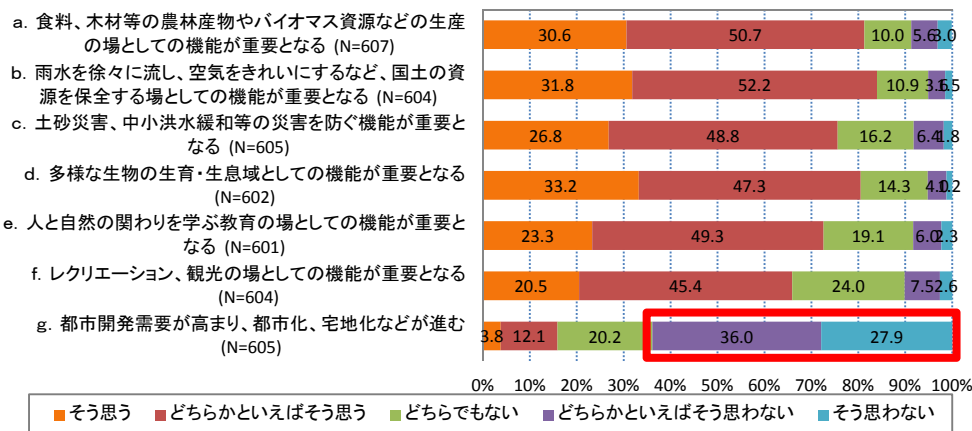
○管理放棄地が問題となるか、問題とならないかについては見解が分かれるところ。ただし、問題とならない場合でも、企業やNPOによる所有、管理が前提。

(自由意見より)

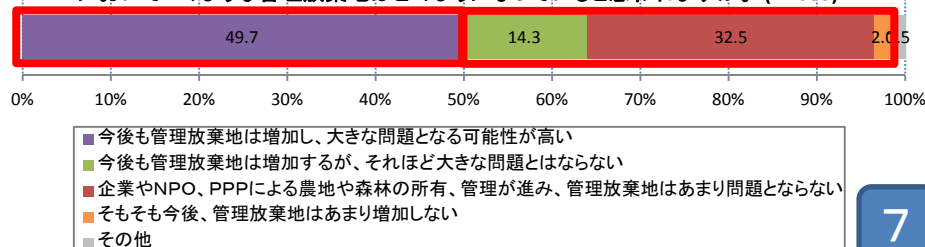
●農山村については、**物理・機能面で考えるのではなく、ライフスタイルや価値観の観点から考えることが必須**。

●管理放棄地については、**公有化や増加を抑えるための法的整備が必要**。

Q17. 2050年頃には農山村地域に求められる機能はどのように変化するとお考えになりますか。



Q18. 農山村地域において、その地域に居住していない所有者の増加等を原因とする管理放棄地(耕作放棄地、放置森林)が近年増加傾向にあります。2050年頃においてこのような管理放棄地はどのようになっていると思われますか。(N=600)



7. 国土基盤(1)

(回答の傾向)

○インフラについては、現在の投資状況が続くと総じて問題が発生する可能性があるが、**比較的、維持・更新が困難になり安全性が低下する、または利用されず放置されるといった既存インフラの管理が問題になる可能性が高い。**

○超高層ビルディング等の地上高層空間や鉄道等の大深度地下空間の利用は進む。

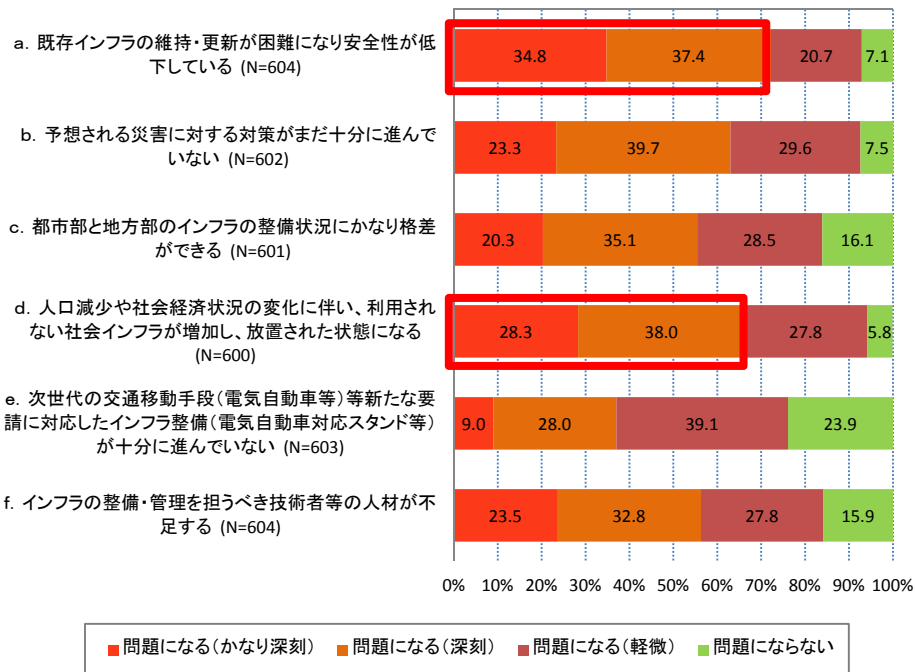
(自由意見より)

●**既存のインフラの維持管理・補修更新は、将来というよりも、現時点において深刻な問題。**

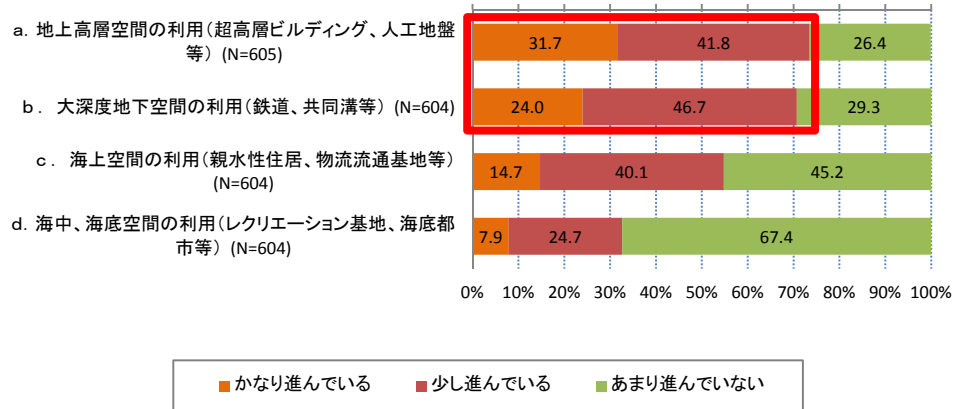
●**既存のインフラストック、空き空間の利活用、地方の開発の方が重要。**技術的な可能性よりも、コスト・必要性との関係が重要。

首都圏での地上高層空間の利用には進展が見込まれる。

Q19. 2050年頃に道路、上下水道等の国土基盤(国土を形成する社会インフラ)に関して、現在の投資状況が続くと仮定した場合、以下の項目については、どのような問題が生じる可能性があるとお考えですか。



Q21. 2050年頃に向けて、国土の新たなフロンティアの利用はどの程度進んでいるとお考えですか。



7. 国土基盤(2)

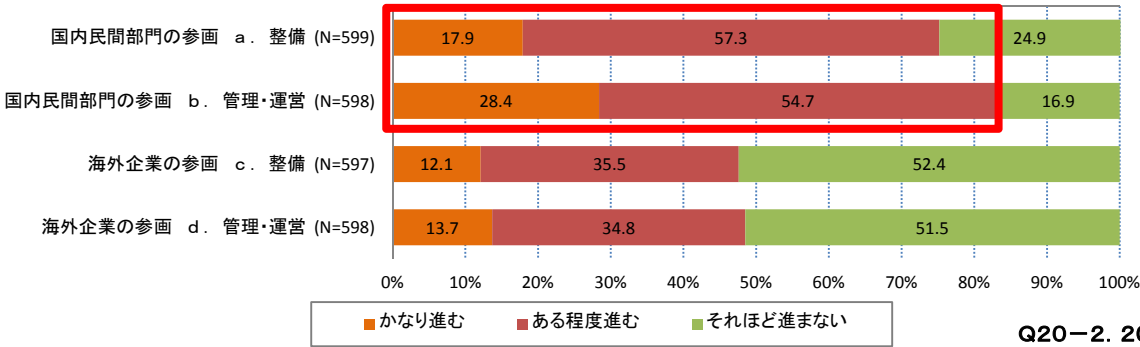
(回答の傾向)

○国内の国土基盤の整備・管理に対しては、**国内の民間企業の参画は進む。海外企業の参画については見解が分かれる**ところ。また、廃棄物処理施設や医療施設の整備への参画が進みやすく、河川、ダム、埋立等の整備への参画は進まない。

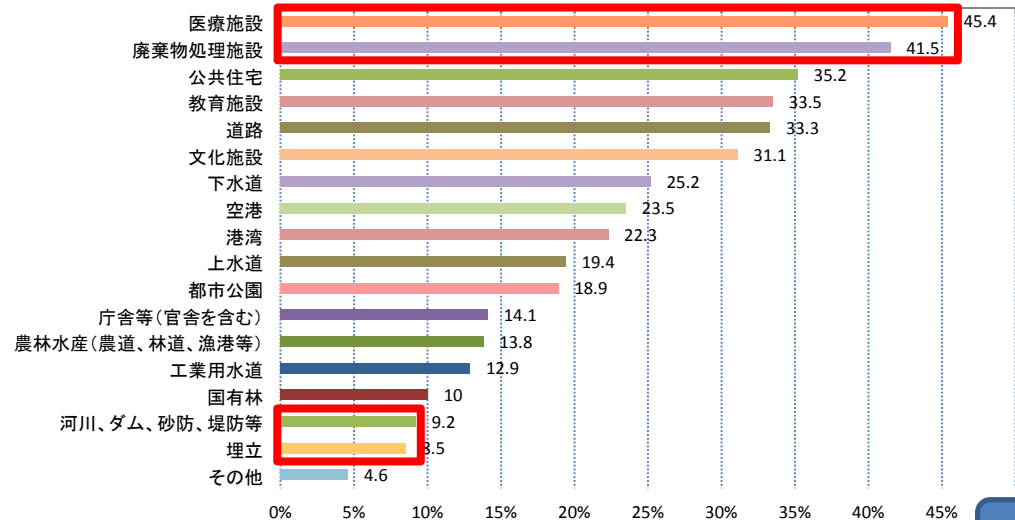
(自由意見より)

●すべて民間に開放すべき。**海外企業の参画については、国民財産の維持、安心快適なサービスとの観点から抑制すべき。**

Q20-1. 2050年頃に向けて、道路、上下水道等の国土基盤の整備及び管理・運営について、国内民間部門や海外企業の参画は、どの程度進むとお考えになりますか。【全体的な動向】



Q20-2. 2050年頃に向けて、道路、上下水道等の国土基盤の整備及び管理・運営について、国内民間部門や海外企業の参画は、どの程度進むとお考えになりますか。【部門別の動向／特に進むと考えられる部門】／国内民間部門の参画 a. 整備 (N=412)



8. 交通・情報

(回答の傾向)

○遠隔医療、情報家電等の情報・通信ネットワークの活用は進む。情報・通信ネットワークが発展・普及しても、人、物の移動は増加する。

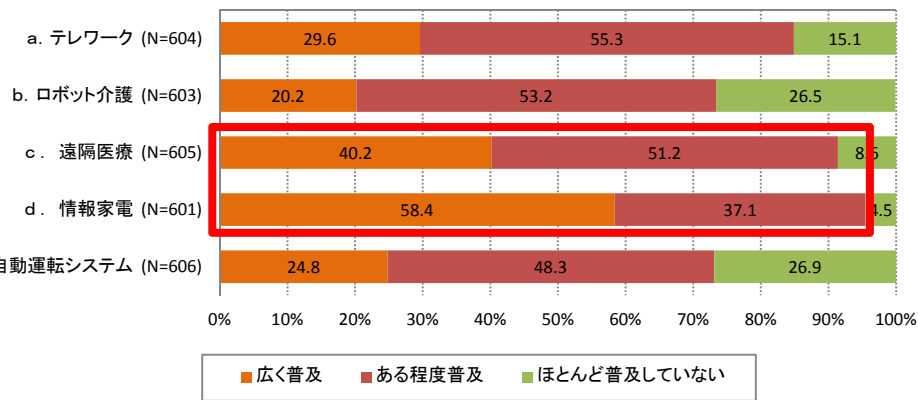
○**自家用車の利用率は、三大都市圏で減少し、農山漁村で増加する傾向。**

(自由意見より)

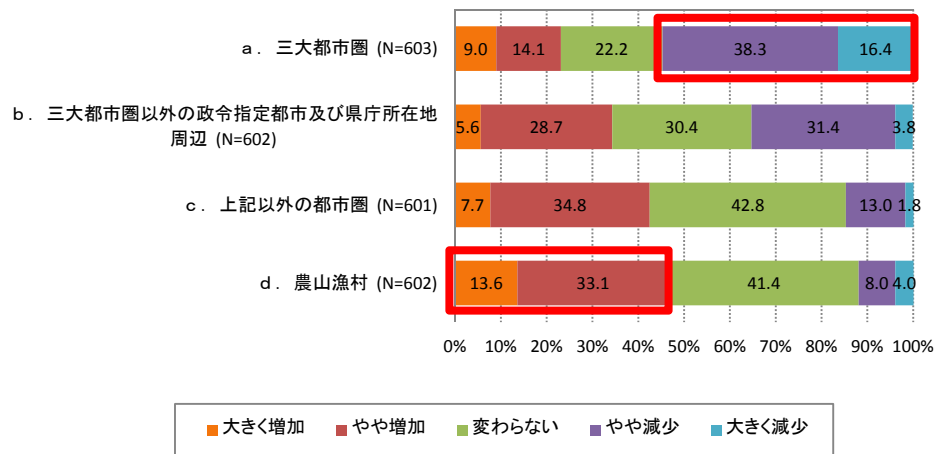
●遠隔医療やロボット介護等に対しては、心、安全性、人間の能力低下など倫理面での批判が想像される。

●**車利用についての変化は、公共交通網の整備状況次第。農村部で車の運転ができない老人が増えることの問題が顕在化する。**

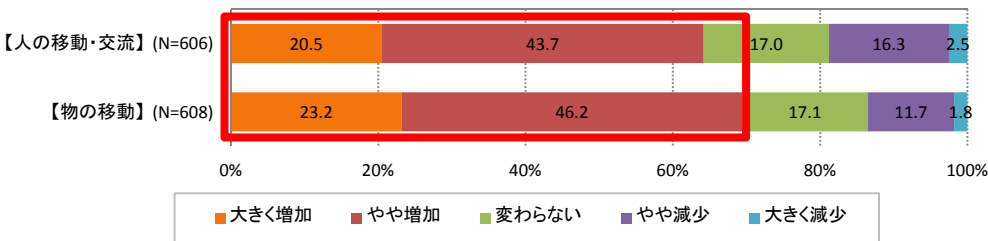
Q22-3. 今後、情報・通信ネットワークを活用した新たな社会システムの構築が期待されますが、情報・通信ネットワークの発展と普及に伴い、2050年頃においては、人の移動・交流、モノの移動について、現在と比べてどのような変化があるとお考えになりますか。また、以下の具体的な社会システムについては、どの程度普及しているとお考えですか。【具体的な社会システム】



Q23. 今後、環境問題の高まり等により、エコカーの普及や公共交通と自家用車の使い分け等も考えられるところですが、2050年頃における、自家用車の利用分担率は現在と比べてどのように変化しているとお考えになりますか。



Q22. 今後、情報・通信ネットワークを活用した新たな社会システムの構築が期待されますが、情報・通信ネットワークの発展と普及に伴い、2050年頃においては、人の移動・交流、モノの移動について、現在と比べてどのような変化があるとお考えになりますか。また、以下の具体的な社会システムについては、どの程度普及しているとお考えですか。



9. 国土利用

(回答の傾向)

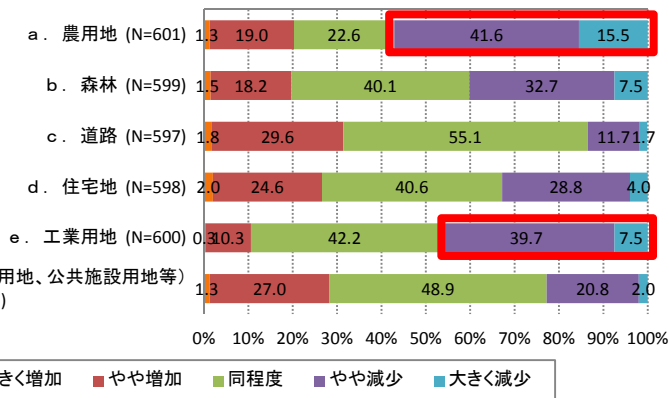
○国土の利用区分上は、総じて現在と同程度で推移するが、「農用地」、「工業用地」は減る傾向。

○**居住エリアはより便利・快適な地域へ集約するが、居住面積は現状と変わらない。集落機能の減退、耕作放棄地・放棄森林の拡大、空き家、空きオフィスの増加が課題になる。**

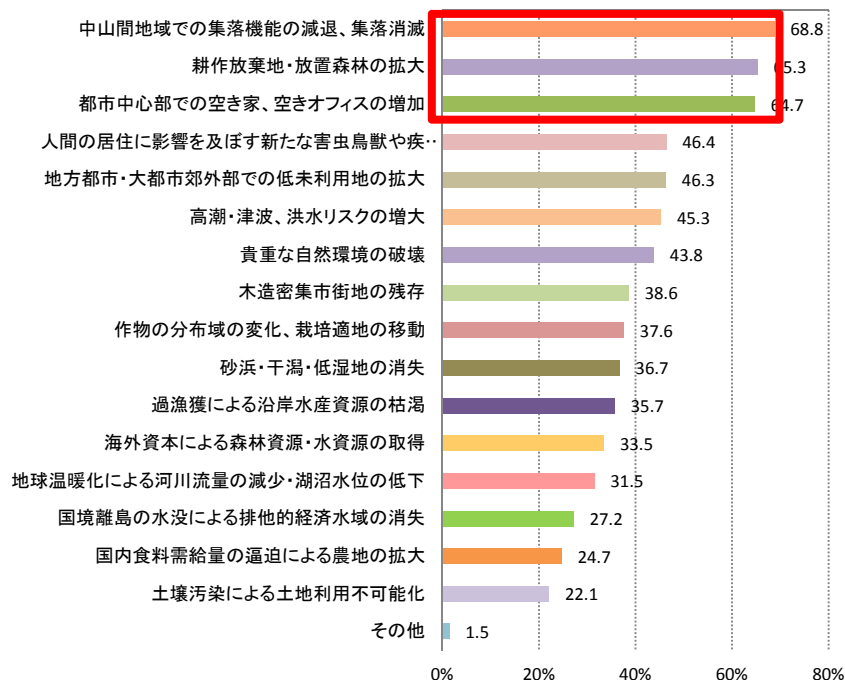
(自由意見より)

●**新規開発の減少、既存用地の利用減少により虫食い状況が増大。宅地、商業地で顕著に。**

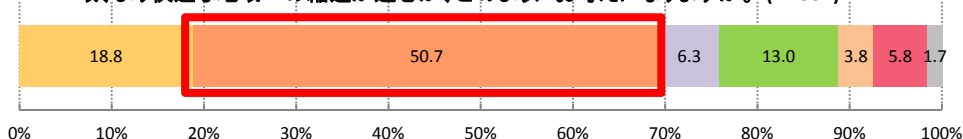
Q25. 2050年頃には国土の利用目的に応じた区分ごとの面積は現況値と比べてどの程度の規模になっているとお考えになりますか。



Q26. 2050年頃には限られた国土の利用を考えた際にどのような点が重要な課題になっていると思われるか。(N=603)



Q27. 人口が減少する中で、単純に考えると一人あたりの居住面積の拡大が可能となります。それを受けて、2050年頃には、居住エリアは現状と変わらずに、一人あたりの居住面積は拡大するか、それとも一人当たりの居住面積は現状のままで、より便利な地域、より快適な地域への縮退が進むか、どのようにお考えになりますか。(N=602)



- 居住エリアはより便利な地域、より快適な地域へ集約するが、一人あたりの居住面積は拡大する
- 居住エリアはより便利な地域、より快適な地域へ集約するが、一人あたりの居住面積は現状と変わらない
- 居住エリアは現状と変わらず、一人あたりの居住面積は拡大する
- 居住エリアは現状と変わらず、一人あたりの居住面積も変わらない
- 居住エリアは現状より拡大し、一人あたりの居住面積は大きく拡大する
- 居住エリアは現状より拡大するが、一人あたりの居住面積は現状と変わらない
- その他

10. 環境・エネルギー

(回答の傾向)

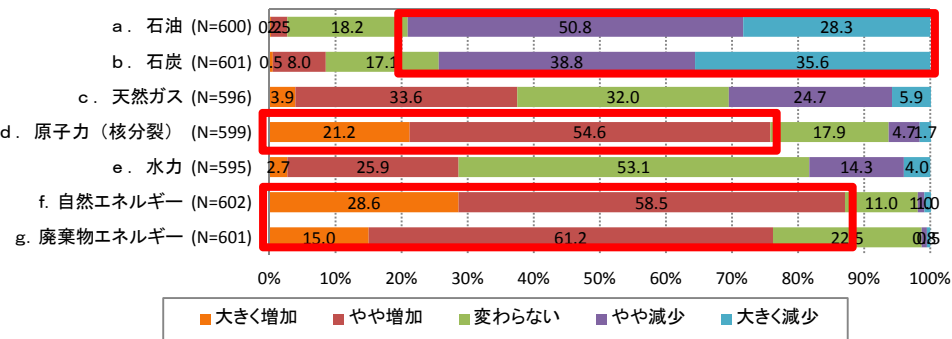
○エネルギー供給のシェアでは、**石油、石炭は減少し、自然エネルギー、廃棄物エネルギー、原子力が増加する**。また、燃料電池、未利用エネルギー資源の活用が進み、エコカーも普及する。温室効果ガス排出量の削減に対しては、原子力、再生可能エネルギー、燃料電池のいずれかが最も貢献する。

○我が国における水、食料、木材の資源としての価値は上がる。

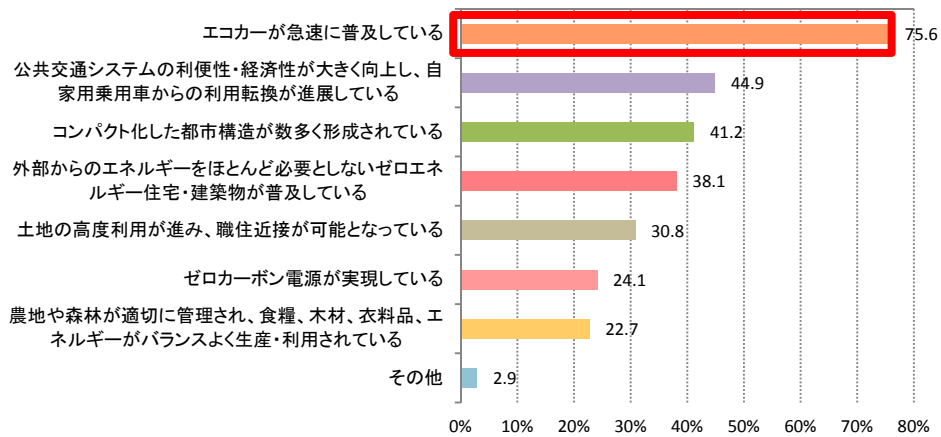
(自由意見より)

●新エネルギーの技術開発は日本の死活問題。エネルギー価格の上昇により、**これまで採算が合わなかったエネルギー技術が普及する**。

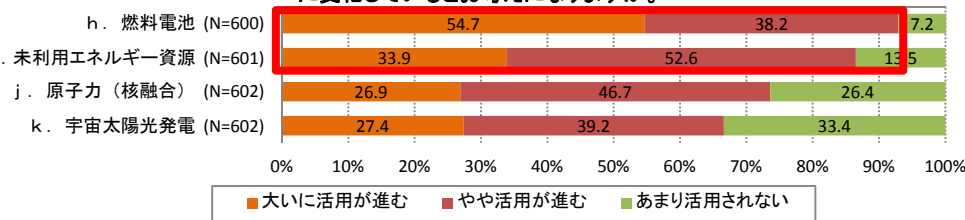
Q28-1. 2050年頃のエネルギー供給状況(各エネルギーのシェア)はどのように変化しているとお考えになりますか。



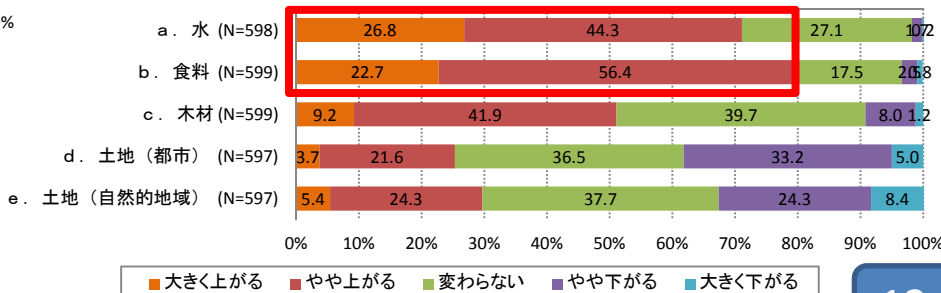
Q30. 2050年頃の社会は、低炭素の視点からどのような社会になっているとお考えになりますか。(N=590)



Q28-2. 2050年頃のエネルギー供給状況(各エネルギーのシェア)はどのように変化しているとお考えになりますか。



Q29. 世界的に見れば今後も人口の増加や経済の発展が予想される中、国際的な資源の需給が逼迫し、価格が高騰することも懸念されていますが、2050年頃において我が国の資源の価値はどのようになっているとお考えになりますか。



Q31. 我が国において、2050年頃に、温室効果ガス排出量の削減に最も大きな役割を果たしている技術はどのようなものだとお考えになりますか。(N=600)

